

がんばる
皆さんを応援!

斎藤造園

斎藤造園は、造園、外構・エクステリア工事、庭園の管理、緑地の維持管理などを手がけています。代表の斎藤正紀さんは15年前に富山市内の造園会社から独立して起業しました。従来の庭造りや管理などの事業に加え、

剪定した枝を自社で碎いてウッドチップとしての活用や、植栽用客土の製造など、環境に優しい庭造りを目指しています。斎藤さんと妻の由紀子さんに、アイデアを生かした造園業のあり方などについて伺いました。

自然の中で遊んだ

斎藤さんは、岐阜県神岡町の出身で、22歳の時に造園会社に就職。タイプの異なる3社で働き、いろいろな庭造りを経験しました。その後33歳で独立し、1994年に結婚した由紀子さんとベテラン職人の3人体制で事業を営んでいます。



▲自家菜園のカモミール畑

「造園業を志したきっかけは、小さいころから、自然の中で遊んでいたの。で自然と触れ合う仕事が好きだったためだと思っています」

ウッドリサイクル

斎藤造園は、2019年に富山商工会議所の支援を受けて採択された「富山県小規模事業者持続化補助金」を活用し、ウッドリサイクル商品を開発・販売しています。これは、剪定した枝を碎いてウッドチップにし、造園に活用する取り組みで、補助金により、枝を砕くウッドチップパーを購入しました。



▲枝をウッドチップにする機械

「それまで剪定した枝は、処分場へ持っていく捨ててはいただけませんでした。そこで、ごみを利用し、炭素循環型社会の実現のために活用できないかと考えたのです。農業の生産者はすでに実行している。自分もそれができると思いました」

枝は碎いてウッドチップにし、土に枯れ葉やもみ殻で作った堆肥を混ぜて植栽用客土にします。リサイクルのための仕組みは環境への配慮だけではないと言えます。例えば、家庭菜園にウ

ッドチップをまくと雑草が減り、畑仕事に楽になります。自然界の「ごみ」を活用することはいろいろな効果を生むのです。また、碎いたウッドチップを専用の海水抽出ミネラル凝固材で固めると、庭へのアプローチにも使えます。木のぬくもりを大事にした庭は好評です。

様々な「庭」を創造

最近では「飲食店の庭の中に畑がある」というオーダーに応えました。野菜や花、ハーブなどを庭で育てられるようなフランスのスタイルの庭で、「ポタジエガーデン」といいます。観賞ができる自家菜園で、畑や花壇でもあり、収穫も楽しめます。

また、最近手掛けた庭は、ある住宅メーカーの事務所の移動式かご石（ガビオン）だったそうです。ガビオンは無骨なイメージを与え、オシャレな空間を演出します。



▲ガビオンを使った企業の庭

由紀子さんはハーブコーディネーターの資格を持っており、「バジルとトマトと一緒に植えるとトマトに虫がつきにくい」などの知識を、施主に伝えることもあります。昭和生まれの世代

が建てた家が老朽化し、リフォームに合わせて庭も改造したいというニーズも多く、女性の希望に沿った庭のアイデアも提供しています。

斎藤さん夫婦は「庭造り、庭の改造の相談は、気軽にどうぞ」と話します。「斎藤造園」を当所はこれからも応援していきます！



▲斎藤造園の施工による庭

斎藤造園

事務所 富山市今泉30-1
作業所 富山市下熊野702

☎076-461-4456
Fax 076-493-3488
✉niwaya.3110@sky.plala.or.jp
mobile 090-2033-4933